高松市議会議員

とみの和憲 かずのり
市政レポート

市議会での一般質問（平成28年12月定例会）を中心にご報告します。
益々ご自愛の上、日々お健やかでありますように。
そして、今年も地道に頑張ってまいります。

第６号
平成２９（2017）年２月発行

【平成２８年１２月定例会　一般質問（１２月１２日）】

❶ 子育て支援について

（1）１歳6か月児・3歳児健診を平成29年1月から桜町の保健センターで集約して実施することが、地域行政組織再編計画に矛盾していると思うがどうか。

【答弁】（市長）

地域行政組織再編計画と関連付けて策定した「地域包括支援センター・保健センター出先機関の統合整備計画」で、限られた保健師等の専門職員を集約し、体制を強化し、一体的・専門的な対応による保健・福祉サービスの向上を図ることとしているので、桜町の保健センターでの幼児健診の集約は地域行政組織再編計画等の趣旨に沿っているものと思う。

（2）総合センター等において1歳6か月児・3歳児健診を実施する考え

【答弁】（市長）

発達障害等の早期発見・早期対応のために専門職員を集約する必要があり、総合センター等での健診の実施は難しい。今後も、子どもや保護者が安心して受診できるよう、保護者等の意見も聞きながら、親子のライフスタイルに沿った健診体制の充実に努める。

※高松市地域行政組織再編計画：市役所が取り扱うサービスのほとんどが本庁組織に集約されている現行の体制を見直し、市民により近いところで、幅広い行政サービスが提供できるよう、現状の「本庁－支所・出張所」の二層構造組織を再編し、「本庁－総合センター－地区センター」の三層構造への移行を目指す計画。平成29年1月から順次移行する。

とみのコメント
地域行政組織再編計画はもとより、地域における総合的な保健・福祉の相談窓口機能の充実と子どもから高齢者まで一体的・専門的な対応による保健・福祉サービスの向上を目指すとした「地域包括支援センター・保健センター出先機関の統合整備方針」の目的にも矛盾していると感じます。より身近な地域で全ての子育て支援を行えるようにすべきです。そもそも桜町から離れた地域から健診に行くとなると、往復相当な時間がかかりますし、ドライブが得意でない保護者もいらっしゃいます。今後も動向を注視します。

❷ フェアトレードタウンについて

（1）フェアトレード及びフェアトレードタウンの有用性をどう理解しているのか。

【答弁】（市長）
フェアトレードの考え方は社会の様々な場面で規範化やその実践が始まっている状況と思う。多様な主体との協働によるまちづくりを推進する本市としても共感を覚えるものであり、こうした理念に基づく取組は、まちづくりの方法論の一つとして有用性があると思う。

（2）フェアトレードタウンを導入するならば、どういう形や計画で取り組むことができるのか。

【答弁】（市長）
フェアトレードに関する取組の、導入拡大等について、ただちに計画的な対応を図ることは困難であると思っており、想定される種々の課題や条件等について引き続き整理する必要があると思う。

※フェアトレード：直訳すると、「公平・公正な貿易」。コーヒー豆やチョコレート原料のカカオ豆など、開発途上国の児童労働に依存している産品が世界的に流通していますが、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することで、その国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組み。
※フェアトレードタウン：世界に広がる格差と貧困、そして、児童労働を、市民・事業者・行政が協力し、まちをあげて是正するために、公正貿易証明がなされた産品（フェアトレード産品）の利用を促進しているとして、認定を受けた自治体。

❸ 国旗・市旗について

（1）学校への旗の掲揚マナーを周知する考え

【答弁】（教育長）
国旗等の掲揚方法について、すでに市内の各学校に文書で通知しているが、さらに徹底するよう管理職研修会で周知する。

（2）市旗を活用した郷土教育、各国の国旗を活用した平和教育を行う考え

【答弁】（教育長）
小学校３・４年生の社会科の授業で、高松市を学習する際に市旗を活用することなどにより、郷土を愛する心情や態度を育成する。また、学習指導要綱の趣旨を踏まえ、児童生徒に国旗や市旗などの旗に対する正しい認識を持たせ、それらを尊重し、我が国や郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育む教育を推進していく。

❹ 防災対策等について

（1）学校トイレの洋式化をより積極的・計画的に行う考え

【答弁】（教育局長）
保護者や学校現場からも、衛生的で快適なトイレとなるよう改善を求める声は多くなっており、災害時には避難所の役割も担うことから、誰もが使いやすいバリアフリー化などの対応も必要となっている。教育委員会としては、現在策定中の「高松市学校施設整備指針（案）」で、トイレ整備の方向性を示し、今後、市全体の財政状況も勘案しながら財源確保に留意し、洋式化を含めた屋内・屋外トイレの整備を計画的に実施したい。

とみのコメント
家庭や商業施設のトイレの大半が洋式トイレなのに、なぜ学校トイレだけが…。今後も「学校トイレの洋式化を推進する地方議員ネットワーク」参加議員として、学校トイレの洋式化を強く訴えていきます。

（2） 学校の緊急地震速報受信機を校内放送設備と直接接続し、緊急地震速報を校内に放送できるようにする考え

【答弁】（教育長）

各学校に設置されている緊急地震速報受信機に外部接続する端子が備わっていないことなどハード面の制約があり、直ちに対応することは困難であるが、緊急地震速報の速報性をいかした、より迅速な避難行動をとることは児童生徒の安全確保を図る観点からも有用であり、今後、他都市の状況も参考に可能な方策について調査・研究する。

（3） 消防局にバイク隊を創設する考え

【答弁】（消防局長）

大都市圏での交通渋滞時の車両火災の初期対応や山岳部で道路損壊が発生した際などの情報収集活動では有効な事例が報告されている。一方で、バイクで災害現場へ出動する際には隊員の危険性が高まるため、専門の隊員を配置し、日々、運転技能の向上を図る訓練を行う必要があるが、バイク隊のある多くの消防本部で専門的な訓練の実施が困難であるなどの課題が示されている。そこで、市消防局にバイク隊を設置する考えはないが、今後とも消防庁の指導や他の消防本部の動向を注視する。また、大規模災害時には、香川県防災ヘリの活用や四国地方整備局、県警、自衛隊などと連携して情報収集に努め、消防活動での迅速な初動対応に努める。

（4） 避難者カード

① 要援護者に関するチェック項目を設ける考え

【答弁】（総務局長）

要援護者へよりきめ細やかな支援が行えるよう、避難者カードの様式について先進事例を参考に、地域防災計画の修正に合わせて見直しを行いたい。

② 外国語版の避難者カードを策定する考え

【答弁】（総務局長）

東日本大震災など大規模災害時の避難所での外国人への対応について、使用する言語や必要項目などの調査を行い、外国語版避難者カードの作成を検討する。

③ どこに避難するのかを把握するための項目を設ける考え

【答弁】（総務局長）

避難者カードは入所した避難所での生活を送るために必要な資料として作成されるが、指定避難所以外で避難した方々に対して、避難所へ食事などの必要物資を取りに来た時に避難者カードを記入してもらうなど、その活用方法等について、他都市の状況を調査し、検討したい。

④ ペットに関する項目を設ける考え

【答弁】（総務局長）

香川県が作成した「ペット受け入れのための避難所等運営ガイドライン」を参考に、見直しを予定している「避難所運営の手引き」の中で、ペットの同行避難の受け入れとともに、避難者カードのペットに関する項目についても検討したい。

⑤ 避難者カードを標準化し、各自治体の状況に合わせた避難者カードの策定を働きかける考え

【答弁】（総務局長）

避難者カードの基本項目が定められ、標準化した上で、各自治体の状況に合わせた避難者カードが策定されることは、避難者への適正な支援・対応を図る上で重要である。県で避難者カードの標準化を行うためには解決すべき多くの課題もあるので、まずは避難者カードの標準化に係る国の動向を注視したい。

※**避難者カード**：避難者の数や状況の把握や要配慮者（要援護者）へのきめ細やかな支援を目的として、災害時に避難所の受付で作成するカード（名簿）。超党派の全国地方議員と市民で構成する「避難者カード標準化プロジェクト」が8都道県域259自治体で調査したところ、約3割の自治体で避難者カードが未策定であり、また約7割の自治体で要配慮者（要援護者）に関する項目等を設けていないことが明らかになっています。

❺ 人事管理等について

（1） 全体の奉仕者としての基本理念を忘れないよう、職員にどのような研修を行っているのか。

【答弁】（市長）

コンプライアンス推進日の毎週金曜日、各所属で、「全体の奉仕者」としての基本理念を読み上げるなど全職員が公務員としての職責を確認している。また、各研修でも公務員倫理研修の時間を設け、職員は全体の奉仕者であることの周知・徹底に努めている。今後も、研修計画の充実を図りながら、職員一人一人が全体の奉仕者としての意識・自覚を継続して持ち、行政課題に的確に対応できる人材の育成に取り組んでいく。

とみのコメント
私は市職員OBですが、平成7年の入庁時、市役所前の石碑「高松市廳(庁)」について語った当時の文化部長の訓示が今でも記憶に残っています。「廳(庁)は政務を聴く役所という意味がある。市民・住民の意見をよく聴きなさい。」と。市職員の皆さんには、この意味するところを忘れず、職務に励んで頂きたいです。

(2) 職員の休日出勤等時間外勤務

① サービス残業の実態をどの程度まで把握しているのか。

【答弁】(市長)
近年における社会経済状況の著しい変化による業務の増加・煩雑化や、多様化する市民ニーズへの対応などにより、職員の時間外勤務の総時間数はここ数年、増加傾向にある。時間外勤務命令を受けずに勤務している、いわゆるサービス残業とも見受けられる状況もあると認識しているが、その実態の正確な把握はしかねるが、サービス残業は決してあってはならないものと考えており、サービス残業が生じない職場環境づくりを推進し、時間外勤務に対する適切な管理に努める。

② ワークライフバランス(仕事と生活の調和)を図るための方針

【答弁】(市長)
平成28年3月に「高松市職員活躍推進行動計画」を策定し、組織的にワークライフバランスを推進し、職員が仕事と家庭の両立ができる職場づくりに取り組むこととしている。今後も時間外勤務縮減に向け、具体的な縮減目標を定め、その目標達成のための各業務の見直し・効率化を図るとともに、管理職に職員の働き方に対する意識改革を徹底し、ワークライフバランスの推進に取り組んでいきたい。

(3) 職員のストレスチェック(心理的な負担の程度を把握するための検査)

① ストレスチェックの結果から見えた傾向

【答弁】(総務局長)
今年度、非常勤嘱託職員を含む 5,401 名に対してストレスチェックを実施した。現時点では、全体的な傾向としては、国が示す全国平均と比較し、ストレス要因やストレスによる心身の反応、健康リスクなど、ほとんどの項目で全国平均値並みの数値であり、特段の傾向はない。

② ストレスが高い人に対しての面接指導を何人実施したのか。

【答弁】(総務局長)
高ストレス者と思われる職員など面接指導対象者は731名で、そのうち希望のあった52名に対して面接指導を実施した。

③ ストレスチェックの結果を今後の人事管理にどのように活用するのか。

【答弁】(総務局長)
今後、部署別や職種別などの集計・分析を行った上で、その結果を人員配置や業務改善、職場環境改善等の人事管理面で積極的に活用する。

(以上)

【平成２８年９月定例会　建設水道常任委員会(９月１５日)】

● 道路管理と道路整備について

(1) 市道勅使檀紙線の潜水橋について、橋脚のある橋を要望する声が地元にあるが。

【答弁】(道路管理課長)
現在の構造や形状等を維持することで、河川管理者である県との協議が調っており、特段の事情が発生しない限り、この潜水橋が流失すれば、これまでと同様の対応となる。

とみのコメント
この潜水橋は香東川の増水時、通行止めになり、過去に何度か流失もしています。香東川には何本か潜水橋がありますが、この潜水橋は他の潜水橋と違い、通行量の多い橋ですし、高校生の通学路、昔からの遍路道です。今後、流失するようなことはあってはなりませんが、万が一の場合、通行者の安心安全のため、地域の声を訴えます。

(2) 狭あいな市道へ退避所を設置する考え

【答弁】(道路整備課長)
今年度見直しをした生活道路整備事業で、市道の局部改良として、一定区間拡幅改良を実施することが、費用対効

果の面からも著しく不合理であって、かつ現状のままでは通行上の安全性等に特に支障があると認められる場合、退避所を設置することができるとした。

（3）都市計画道路木太鬼無線（西春日・鶴市工区）の開通見通し

【答弁】（道路整備課長）

一地権者を対象として、平成28年2月、香川県収用委員会に対し裁決申請ならびに明け渡し裁決の申し立てを行い、現在、収用委員会で裁決に向けた手続が進められており、この区間の開通時期を現段階で具体的に示すのは困難だが、引き続き、早期の供用に向け、全力をあげて取り組んでいく。

とみのコメント

この木太鬼無線（西春日・鶴市工区）は御殿山トンネルが貫通してから、5年あまりの年月が経過しています。この道路が開通すれば、地元地域だけでなく、周辺地域にも、渋滞緩和とアクセスの向上が図られ、大きなメリットがあります。早期の供用開始を超党派で同僚議員らと訴えていきます。

【会派「市民フォーラム２１」行政視察】

大田原市、市原市、多摩市、逗子市、横浜市へ

平成28年11月9日（水）～11日（金）、会派「市民フォーラム21」の所属議員5名で行政視察に行かせて頂きました。

大田原市：「学校給食無償化」
市原市：「地域公共交通の取り組み」
多摩市：「決算事務事業評価」
逗子市：「フェアトレードタウンの取り組み」
横浜市：「待機児童ゼロの推進に関する取り組み」

市原市の「地域公共交通の取り組み」は交通空白地域における公共交通のあり方について大いに参考となりました。
また、逗子市の「フェアトレードタウンの取り組み」で得た参考事例は、6月定例会での質問に引き続き、12月定例会で質問しました。
今後も会派行政視察で得たものは、会派として今後の議会で取り上げるなど、活かしていきます。

【平成２９年３月定例会】

会期：平成29年3月2日（木）～23日（木）（想定）
議案：平成29年度当初予算案など

※市議会では、一般質問の回数制限があり、３月定例会では質問できません。
※会派「市民フォーラム２１」では、質問の回数制限の撤廃を求めています。

◇◇

○ご要望・ご提言などをお聞かせください！○

今後も皆様と課題等を一緒に考え、解決していく努力をします。
ご自宅や自治会、お仕事場へお伺いし、直接お聞きいたします。どうぞお気軽にお声掛けください。

○「朝のご挨拶」活動、まだまだ継続中！○

時間：午前8時前後
場所：（月曜日）高松西インター前交差点　、（火曜日）高田整形外科前交差点
（水曜日）マルナカ檀紙店前交差点　、（木曜日）高松脳外科南側交差点
（金曜日）JA檀紙支店西側交差点または中森交差点

※都合により変更・中止させて頂く事がありますが、お許しください。
※「朝のご挨拶」の場所でもご要望・ご提言などをお受けします。

◇◇

☆皆さんから寄せられたご要望から☆

国道１１号線檀紙交差点の道路修繕（檀紙町）

平成27年9月、地域からご要望。
「交差点内に轍（わだち）が出来ていて、通行する時、危険！」
高松国道維持出張所へ対応依頼。
時間はかかりましたが、平成28年8月末までに交差点周辺部分も含め工事完了。

市道円座川向線（古川の橋）の道路修繕（中間町・西山崎町）

平成27年9月、地域からご要望。
「橋の路面（コンクリート舗装）が剥離し、大型車が通ると、家にまで『ドン！』という大きな音が聞こえてくる。」
道路管理課へ対応依頼。
平成28年2月末までにアスファルト舗装の工事完了。

その他、国道11号線御厩西交差点周辺の道路管理（御厩町）や市道・県道の拡幅整備などの道路管理・整備、あるいは教育問題や福祉問題など、昨年末（平成28年末）までに228件のご要望を預かりしており、現在進行形です。
安心安全な街を目指し、今後も全力を尽くします。

高松市議会議員とみの和憲
市政レポート　第６号
平成２９（2017）年２月発行

〒761-8043
高松市中間町 598 番地1
TEL＆FAX：087-885-0370
e-mail：kaz.tomino@gmail.com

●富野和憲（とみのかずのり）プロフィール●

昭和46（1971）年12月29日　高松市中間町生まれ（45歳）
檀紙幼、檀紙小、香東中、大手前高松高卒
平成　7（1995）年　立命館大学法学部卒業
高松市役所入庁（納税課・市民課・人事課）
平成19（2007）年　高松市役所退職
以後、国会議員秘書（平成26年6月退職）
平成23（2011）年　高松市議会議員選挙に立候補（2,165 票）、落選
平成27（2015）年　高松市議会議員選挙に立候補（3,239 票）、初当選

「学校トイレの洋式化を推進する地方議員ネットワーク」参加議員
日本旗章学協会、香川EU協会、日本唐揚協会の会員

ブログ「とみの和憲　徒然ブログ」（**http://ameblo.jp/k-tomino/**）

facebook.com/kazunori.tomino　@kaz_tomino

ご覧頂き、ぜひ「お友達」申請、フォローをお願いします！

※とみの和憲は、お金に依存しない、クリーンな政治活動を続けます。ご理解ください。※